

2019年6月17日
日本船主協会 海務部

率直な意見交換を通じて関係を強化 ～海技教育機構と内航海運事業者の情報交換会を開催～

日本船主協会では2008年7月より人材確保タスクフォース(TF)を結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しており、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて具体的な活動を進めています。

この度、2019年6月11日(火)に内航WGが中心となって、海技教育機構本部および傘下の海上技術学校、海上技術短期大学校、及び海技大学校の教員と、当協会会員の内航海運事業者がお互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を開催しました。

6月11日に日本船主協会会議室にて開催された当情報交換会は、今年で10回目の開催となりました。会場には、海技教育機構本部、小樽・館山・口之津・唐津の海上技術学校、宮古・清水・波方の海上技術短期大学校、海技大学校8校の教員と、内航船社17社から28名が参加しました。

初めに、海技教育機構本部より入試状況や就職状況等の機構の概要説明と、内航船社より各社の概要紹介が行われました。

次に、海技教育機構側から提起された「採用選考に関する指針の廃止」、「若年層募集活動においてアピールすべき、将来の船員労働環境や雇用の確保に関する業界のビジョン」について意見交換が行われました。また、学生の教育方法や取り組みなどについても、内航船社と海技教育機構から様々な意見が出されました。

活発な意見交換が行われ、職業・企業を選択する上でのミスマッチを防ぐためにも双方間で情報交換・共有することが非常に重要であることが再認識された情報交換会となりました。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後も優秀な日本人海技者確保に向け、関連機関と協力して幅広い活動を継続していくこととしています。



情報交換会の様子